

中原中也

— 汚れつちまつた悲しみに



18歳の頃の中也(中原中也記念館提供)

汚れつちまつた悲しみに
今日も小雪の降りかかる

汚れつちまつた悲しみに
今日も風さへ吹きすぎる

(「汚れつちまつた悲しみに……」より)

2021年 2022年
12月11日(土)~2月12日(土)

[休館日] 月曜日(ただし1月10日は開館し、翌日休館)

[開館時間] 9:30~17:00

[会場] 徳島県立文学書道館 1階特別展示室、3階収蔵展示室

[観覧料] 一般 520 (410) 円 高校・大学生 360 (290) 円
小・中学生 260 (200) 円

* ()内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。小・中・高校生は土・日・祝日・冬休み期間中は無料。

関連イベント

◇講演会「悲しみからはじまる—中原中也の世界」

※申込必要(先着80人)

12月19日(日) 14:00~15:30

講師/佐々木幹郎(詩人・評論家)

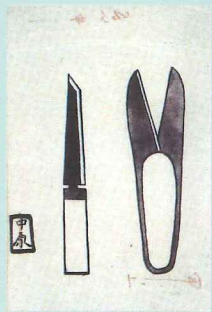
◇朗読会「中原中也を読む」※申込必要(先着80人)

1月23日(日) 14:00~15:00

朗読/岩瀬弥永子(元四国放送アナウンサー)

ギター演奏/平岡範彦

主催/徳島県立文学書道館 協力/中原中也記念館 後援/徳島新聞社、四国放送、NHK徳島放送局



小学校4年生のときの図画



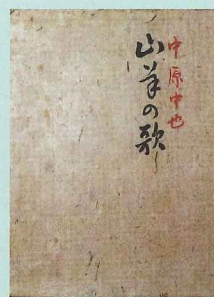
小学校3年生のときの習字

*小学校時代の中也は「神童」と呼ばれ、習字や図画が得意だった

人間の悲しみや寂しさを、真つすぐな詩心と少年のようなまなざしで写し取った詩人・中原中也(1907-1937年)。「サーカス」「帰郷」など深い叙情と澄み切った感性の結晶した詩は、多くの人の心を感めてきました。近代を代表する詩人の一人で、今なお愛され続ける中也の作品世界を豊富な写真や資料とともに紹介します。



中也の死後、友人たちの手によって刊行された第2詩集『在りし日の歌』(1938年 創元社)



高村光太郎の装幀による第1詩集『山羊の歌』(1934年 文圃堂書店)



結婚記念写真(1933年12月)
中也は26歳、妻上野孝子は20歳

幼年時
私の上に降る雪は
真綿のやうでありました

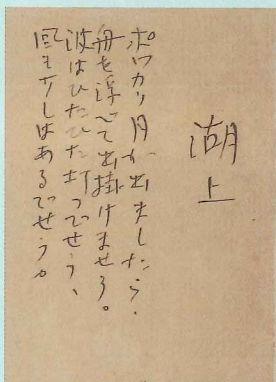
少年時
私の上に降る雪は
霧のやうでありました

十七—十九
私の上に降る雪は
霧のやうに散りました

(「生ひ立ちの歌」より)



中学校3年生時代の中也



詩の清書用に使用していた「ノート
小年時」に記されている草稿「湖上」
(部分) (1930年6月15日制作)



中原中也詩碑除幕式の日(左から)河上徹太郎、小林秀雄、今日出海、大岡昇平(1965年6月4日 山口市湯田温泉)。「帰郷」の詩が刻まれている



中原家旧蔵のレコード

*中也は音楽を愛し、レコードを楽しんでいた。ベートーヴェンのピアノソナタ「月光」、マスネの「エレジー」など、17枚のSPレコードが中原家に残されていた

中也使用と同型の蓄音機

※写真は中原中也記念館提供

関連イベントの申込方法

はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号をご記入の上、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

交通アクセス(JR徳島駅から)

■徒歩 約15分

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して300m。徳島中学校東隣。

■タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。

■バス

【徳島市営バス】7番乗り場「川内循環(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。
【徳島バス】2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

■駐車場

当館北側にあります(43台、大型バス2台)。

